



地域と農業を結ぶ、ふれあいと絆の発信源“あぐれっしゅ”

Agresh

4月号
2023
No.157

Agresh

4月号
2023

No.157

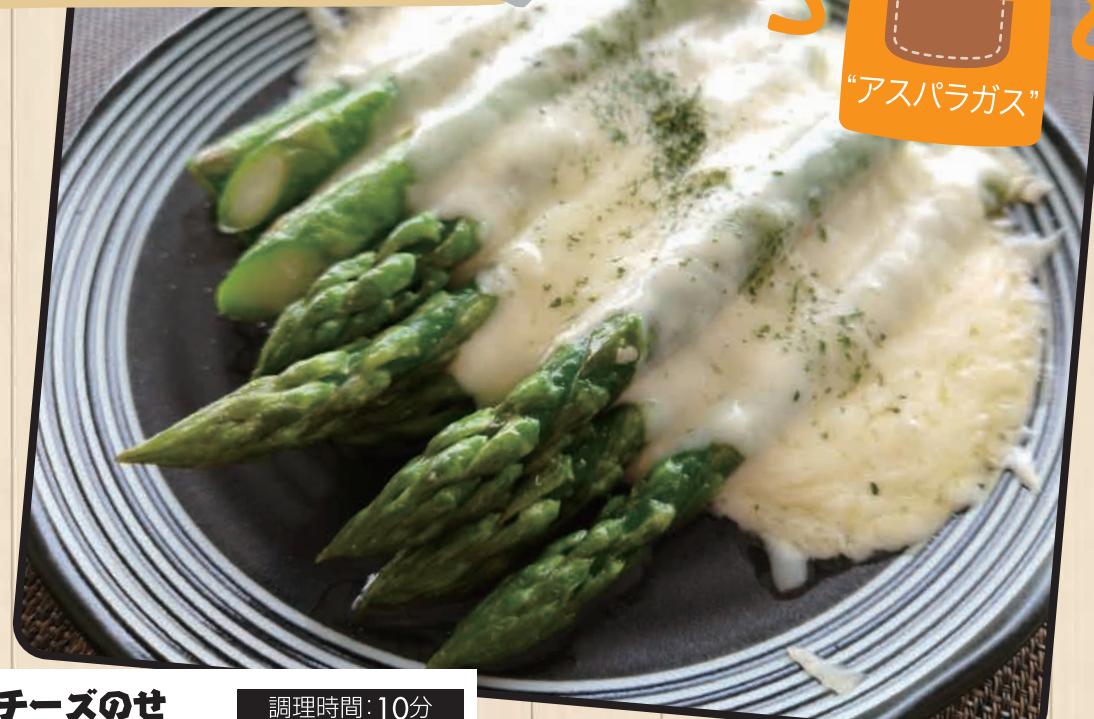
JJA十和田おいらせ



特集 みんなの声をお聞かせください! ~全地区で地区別懇談会開催~

令和5年4月17日発行
■発行／十和田おいらせ農業協同組合
■編集／JA十和田おいらせ広報編集委員会 ■公式ホームページ https://www.jatowada.o.or.jp
■Email:soumu@jatowada.o.or.jp ■印刷／アート印刷

農家さんの料理教室
今が旬!
シャキっとアスパラガス



たっぷりチーズのせ

調理時間:10分

材料

・アスパラガス ・とろけるチーズ ・塩コショウ

作り方

- ① フライパンでアスパラガスに焼き目をつけ、塩コショウで下味を付ける。
- ② ①をお皿に移し、上からチーズをたっぷり乗せ、チーズが溶けるまでレンジで加熱する。
- ③ お好みでパセリをふりかけたら完成。

Point

- レンジで加熱をするので、下茹である時は早めに取り出す。



お味噌汁

調理時間:15分

材料

・アスパラガス ・みそ ・だし汁

作り方

- ① だし汁を火にかけ、味噌で味を調える。
- ② 食べやすい大きさに切ったアスパラガスを①に入れ、火が通ったら完成。

Point

- アスパラは一緒に煮込むのではなく、後入れすることで、シャキシャキ食感を楽しめます。

今月の先生

上北支店管内 中野 一雄さん
作付品目:アスパラガス、ネギ
タマネギ、トマト、他

※今回使用したアスパラガスは太みがあったため、下茹でしてから調理しました。

特集

みんなの声をお聞かせください! ～全地区で地区別懇談会開催～



2月27日～3月6日にかけて、10カ所の全ての地区で地区別懇談会を開きました。農家組合員195人出席のもと、令和4年度の事業動向や事業別の活動状況などを説明しました。今回の特集では、各会場での主な質疑応答を紹介します。

[やさしい・指導]

Q1 ニンニクが安くなつた要因と、今後の見通しを教えてください。

最近は四国・九州産がニンニクの冷蔵施設を備えてきています。令和4年産の作柄と収量は平年並みで、製品が超過したため安値となりました。5年産も平年並みであれば、価格の回復は難しいと想定されます。今後も販売努力を継続していきますので、良質生産をお願いします。

Q2 ももいしのニフジン施設建設について、なるべく早く対応してもらいたいです。

見積取得をしたところ高額となつたため、見直しをしています。当初令和6年度の事業予定でしたが、令和7年度の申請へ変更となる見込みです。

Q3 電気料金の値上げが4月から5月に変更となるようですが、JAの集荷施設利用料も5月1日からの値上げになるのですか。

A3 電気料金の値上げは、「規制料金契約」に対して東北電力が国へ値上げ申請しているもので、JAは別の「自由料金契約」です。燃料価格の高騰で、昨年に比べると燃料調整額分が11月使用分から値上がりしているため、今回の施設利用料については、令和5年4月1日から改定をお願いします。

A4 運賃の改定はありますか。

A5 JA独自の支援があつたようですが、令和5年度も考えていますか。

JA独自の支援事業として行っています。自転車やドローンについては、需要が昨年でほぼ完了したと考え、「年間の事業の中には含めておりません。パワーアップ・アクション等でじゅうたん」という状況にこころ改定の予定はありません。

A6 スマート農業への支援は、JAの产地拡大対策事業として行っています。自動操舵やドローンについては、需要が昨年でほぼ完了したと考え、「年間の事業の中には含めておりません。パワーアップ・アクション等でじゅうたん」という状況にこころ改定の予定はありません。

A7 JAに出荷すると手数料が高いイメージがあります。「JAのままでJAに野菜が集まらない」という状況になると思います。

A8 精算書はJA手数料と市場手数料、利用料等の項目を含めて精算しています。JAに出荷して手取りにつながったと思えるのは、3月の奨励金や助成金を受け取った後となります。業者と比較する場合は、トータルの金額で確認していくべきだと思います。最終的にJAに出荷して良かったと感じてもうけるよう取り組んで参ります。

A9 青年部も年々会員が減ってきてます。当JA管内でも支部がないお店があることを考えると、思い切って青年部を無くしたり、各専門部会の若手塾に入れたりと、組織の在り方を考えても良いと思います。

A10 青年部や女性部も地域農業の維持・拡大や活性化に貢献する大切な組織です。なくするのではなく、組織の盛り上げながら一員で良かったと思える取り組みが必要だと思っています。JAも全面的に支援し激励していくと考えています。

A11 今後「はれわたり」の位置づけはどうなつてีりますか。また、「はれわたり」の作付けが増加していく場合、「まつしぐら」はどうなりますか。

A12 現在の主力は「まつしぐら」ですが、「はれわたり」は県内消費向けとしてほしいうといふ話が出ていると聞きましたが、酪農家の実態としてはまだ足りません。この半年で状況は大きく変わっているため、実態を考慮して価格に反映させてほしいです。

A13 東北生乳販連の飲用・発酵乳等の値上げ交渉で、価格を15円程度上げてほしいという話が出ていると聞きましたが、酪農家の実態としてはまだ足りません。この半年で状況は大きく変わっているため、実態を考慮して価格に反映させてほしいです。

A14 令和3年産は契約先との取引が早期に完了し、主食用米も安かつたため、生産者へ早めに入金したほうが良いと考えて精算しました。結果的に、加工米を多く作付けしている生産者にどうぞ2年分が入金となり、収入に大きく影響してしまいました。今後は、精算時期を安定させるよう検討し、統していきたいと思います。

A15 定期的に生乳販売会議に出席してこの値上げ幅では採算が合わないことがあります。JAも全面的に支援し激励していくことを訴えています。酪農家の声を引き続き伝え、反映させてほしいです。

A16 令和3年産は契約先との取引が早期に完了し、主食用米も安かつたため、生産者へ早めに入金したほうが良いと考えて精算しました。結果的に、加工米を多く作付けしている生産者にどうぞ2年分が入金となり、収入に大きく影響してしまいました。今後は、精算時期を安定させるよう検討し、統していきたいと思います。

A17 現在の組合員数は平成22年の半分ぐらいになつているのですが、減少理由は離農による脱退ですか。

A18 主な理由は不在組合員の整理によるものです。その他の理由としては、高齢や後継者不在による離農、正組合員死亡で、相続人が正組合員の加入資格を満たさない等があります。

A19 組合員の減少を食い止める方法はありますか。

A20 減少を食い止める方法は難しいですが、一戸複数正組合員制による組合員加入の推進で増やしていくと考えています。

A21 現在の組合員数は平成22年の半分ぐらいになつているのですが、減少理由は離農による脱退ですか。

A22 主な理由は不在組合員の整理によるものです。その他の理由としては、高齢や後継者不在による離農、正組合員死亡で、相続人が正組合員の加入資格を満たさない等があります。

A23 野菜価格は安値であるのに対しても、生産資材の価格は高騰し、大変厳しいです。合併の効果が見えないと思います。利用料の値上げで経費が増えるのは仕方ないですが、JAは全国組織であることを活かして、販売戦略を展開してもらいたいであります。農家のために行政や国に伝わるよう声を大にしてほしいです。

A24 先日、全中主催の会議で、国はJAグループの要請を踏まえた大規模な予算を確保したという報告がありました。令和4年9月に岸田首相も食料農業農村の基本法への総合的見直しに対する指示を表明し、JAグループも見直しに向けた組織の検討を始めています。農畜産物の価格について基本法の中に再生産が可能な価格に転換する」とを明記し、JAグループ独自のメッセージである「国消

グループの要請を踏まえた大規模な予算を確保したという報告がありま

した。令和4年9月に岸田首相も食

料農業農村の基本法への総合的見直

しに対する指示を表明し、JAグ

ループも見直しに向けた組織の検討

を始めています。農畜産物の価格につ

いて基本法の中に再生産が可能な価

格に転換する」とを明記し、JAグ

ループ独自のメッセージである「国消

グループの要請を踏まえた大規模な

予算を確保したという報告がありま

した。JAに相談ください。

JAに相談ください。



イキイキ活動

一緒に活動しませんか?
農業者以外の方も大歓迎!



女性部長 小川真利子さん

私の理想は「あるものを大切に、家庭を明るく支える」ということです。さまざまな物が値上がりし苦労も多いですが、活動の中で学んだ料理の知恵や生活の工夫が、暮らしを豊かにしてくれていると感じます。昔の知恵は時代に合わせて、形を変えながら、私たちが次世代につないでいかなければならぬと思っています。

多くの人が集まることで活動の幅を広げ、より意義のある活動につなげていきたいです。一緒に明るい暮らしを作りましょう!



女性部 事務局 TEL:0176-23-0314

7支部427人(令和5年4月1日現在)
(十和田・おいらせ町・上北・十和田湖・七戸・横浜町・むつ)

主な活動

- ・地元小学生へ伝統料理継承
- ・フラワーアレンジメント等講習会
- ・地域やJAのイベントで農畜産物PR
- ・視察研修会 など



青年部長 斗沢正和さん



青年部 事務局 TEL:0176-23-0339

7支部169人(令和5年4月1日現在)
(三本木・大深内・藤坂・上北・十和田湖・七戸・横浜町)

主な活動

- ・地元小学生の農業体験
- ・地域やJAイベントで農畜産物PR
- ・手作り看板で地域農業の理解醸成へ
- ・婚活イベントの計画・実施 など



長引くコロナ禍で思うような活動ができず、組織を離れていく盟友もいました。青年部は活動を通しながら、仲間づくりをすることで情報共有を図り、後継者育成へつなげる。そして、今後の農業を担う若手の農業への情熱を発信していくことが役割だと感じています。

もう一度みんなで集い、活動を再開させ、新しいことに挑戦することで、地域や青森県を元気にしていきたいです。不安に思うことはありません。一緒に活動しませんか!

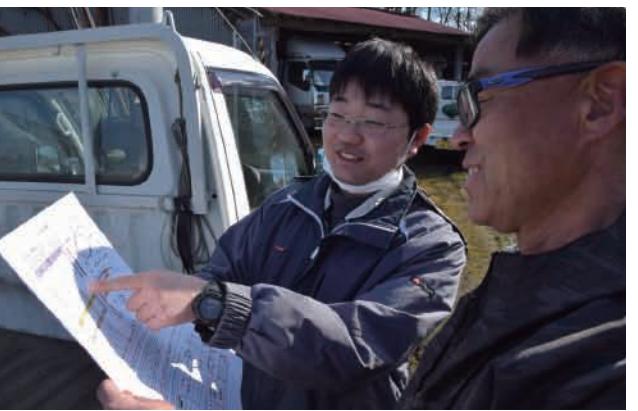
3
14

11
農地改良技術講習会
農地改良技術講習会

土壤分析でコスト低減へ

当JAは健康な土づくりに向けて土壤分析と堆肥分析装置を取り入れ、これまで25年間75,300点の分析データを蓄積管理しています。うち令和4年度に分析した約5,000点を総合的に解析し固めた令和5年度の施肥指導方針は、パワーアップ・アクションを通して生産農家へつなげていきます。今後は耕畜連携を強化し、化学肥料の削減による低コスト化を目指します。

舛館哲二ごぼう専門部会長は、年に3品目10点の土壤分析をJAに依頼。「土の状態を見てもらうことが、健康な土で健康な野菜を作っているという安心感にもつながる。今後は未実施の人にもメリットを伝え、自身のほ場の分析も続けていきたい」と話しています。



▲分析結果を確認し、土壤改良などをアドバイスするJA指導員

3
17

4
農地改良技術講習会
農地改良技術講習会

切芋活用で再起図る

令和5年植え付け用ナガイモの種芋が大幅に不足し、生産農家の所得減少や産地維持の危機感が強まる中、ながいも専門部会は成芋を種芋に活用する切芋講習会を開きました。次期作に向けて農家の再生産意欲を高め、再起を図ります。

切芋は種芋の消毒や病害の感染対策、植え付け時期の見極めなどの知識や技術が必要なため、ほとんどの農家が1~2年養成した子芋を種芋として使用しています。

寺澤部会長は切芋の腐敗が不萌芽につながるため、確実なケアが必要としながら「的確な選別と腐敗対策をすることで品質・収量アップも見込める。初めての作業に不安が大きいと思うが、種芋が不足している今、ぜひ挑戦してほしい」と呼びかけていました。



▲寺澤部会長から種芋にする成芋の選別を学ぶ農家ら

「あおもり土づくりの匠」に竹ヶ原正克さん認定

青森県は「日本一健康な土づくり運動」を推進しており、平成24年度から高度な土づくりに取り組み、他生産者の模範となる生産者を「あおもり土づくりの匠」として認定しています。令和4年度はももいし支店管内の竹ヶ原正克さんが、健康な土づくりの指導的な役割を担う地域農業のリーダー「耕種農業者」として認定されました。

竹ヶ原さんは、土壤診断に基づいた適正な施肥や鶏糞堆肥などの施用による土づくりで、化学肥料の使用量を低減。さらに世界基準の農業認証「グローバルGAP認証」や農林水産省ガイドラインに基づく特別栽培などに取り組み、地域の農業者への指導に尽力しています。



当JA管内「あおもり土づくりの匠」
(耕種農業者)

十和田市・山田 正さん・中野渡 正光さん
・仁和 勝千代さん
・山田 清徳さん・大浦 進さん
・平館 龍太郎さん
・仁和 正一さん・大久保 芳樹さん
横浜町・菊池 國廣さん
七戸町・成田 勝敏さん・寺澤 和夫さん

竹ヶ原さんの声

土づくりへの取り組みは、輸入に押されている日本の農業に不安を感じ、生き残っていくために農産物の価値を高めようと思ったことがきっかけです。「消費者あっての農家」であり、たくさんある商品の中から、自分の作った野菜を選んでもらうための取り組みが必要です。GAP認証と「あおもり土づくりの匠」は盾と矛のように商品価値を守るだけではなく、従業員らの意識の向上、責任感にもつながっていると感じています。今後は、食品残渣を肥料化して畑に還元するなど循環型農業の実現を目指していきたいです。